はやとくんの
ぼうさいだいさくせん

さく　え
かわばたきみえ　くろさかさきか　すのはらみずき　たけざわみさき　ときえだそのか

今日(きょう)は日曜日(にちようび)。はやとくん は友達(ともだち)とサッカーをして遊(あそ)んで帰(かえ)ってきました。

「ただいま。」と はやとくん が言(い)うと、

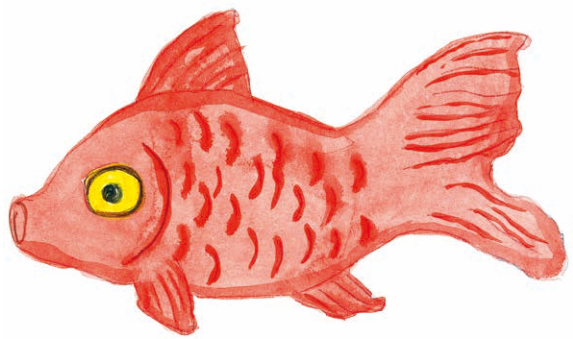
「お帰(かえ)りなさい。」「お帰(かえ)り。」とお母(かあ)さんとお父(とう)さんがこたえました。

山口

はやとくんは、お母さんが作ってくれたカレーライスのお昼ご飯を食べた後、

「金魚にもお昼ご飯をあげよう。」と言って、飼っている金魚にエサをあげることにしました。

すると…



金魚の水槽の下に見たことがないマットが敷いてあります。

「これ、なぁに？」と はやとくんが聞きました。

「これは地震がきて家が揺れた時も水槽が滑り落ちないように敷いたマットよ。」

とお母さんが言いました。

「今日は９月１日で防災の日だよ。」とお父さんが言いました。

「防災の日って、なあに？」とはやとくんが聞きました。

「地震や台風がきても大丈夫なように準備をする日だよ。はやとが遊びに行っている間に、

お父さんとお母さんで家の中を見てまわったんだよ。」とお父さんは言いました。

はやとくんは、家の中のどこが変わったか探検することにしました。

2013年　9月　SEP

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

はやとくんは、本棚と天井との間に２本の棒が立てられていることに気がつきました。

「あれ、なぁに？」とはやとくんがお母さんに聞きました。

「あれは本棚と天井をくっつけているツッパリ棒よ。地震がきたとき本棚が倒れてこないようにね。」とお母さんが言いました。

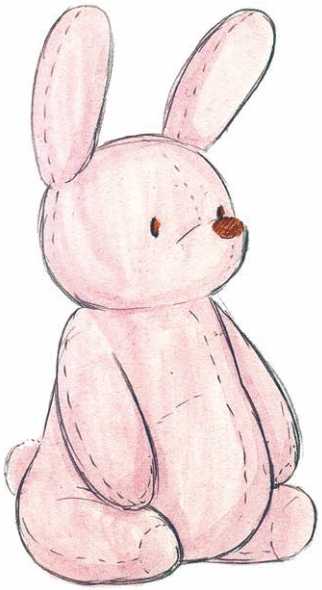
はやとくんが窓を見ると、窓ガラスに大きな透明のシールが貼ってあることに気付きました。

「これ、なぁに？」とはやとくんがお母さんに聞きました。

「このシールを貼っておくと、もしガラスが割れても床に散らばらないんだよ。」

とお母さんが言いました。

「大きな地震や竜巻でガラスが割れて床の上にちらばったら、足を怪我してしまうからね。」とお父さんも言いました。



「ふーん、そうなんだ。」とはやとくんが言いました。

「はやとの部屋も少し変わったわよ。」とお母さんが言いました。

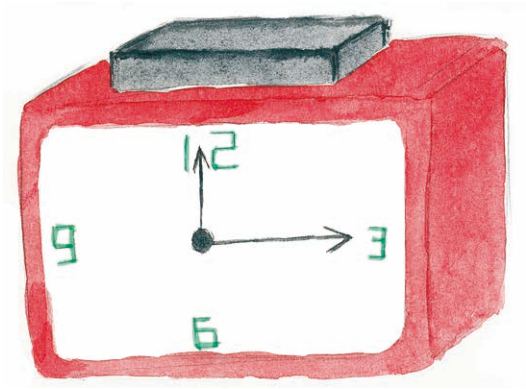
はやとくんは、自分の部屋を見に行くことにしました。

はやとくんは自分の部屋に入るとすぐに、背の高い本棚が無くなって、背の低い本棚に変わっていることに気がつきました。

「どうしてあの本棚が無くなったの？」と、はやとくんがお父さんに聞きました。

「地震や台風がきて本棚が倒れたら、ドアが開かなくなってしまうし、もしはやとが下じきになるとたいへんだからね。」とお父さんが言いました。

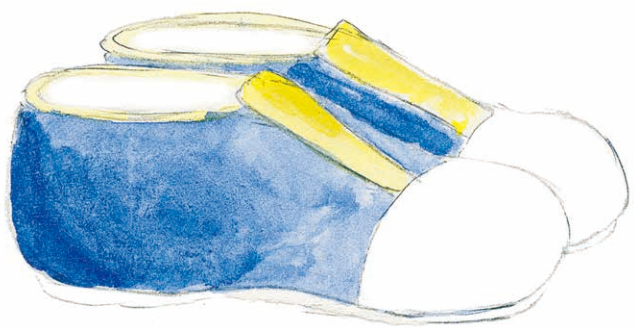
「ドアが開かないと、ぼく逃げられなくなっちゃうね。」とはやとくんは言いました。



はやとくんはベッドを見ると、きのこの電気スタンドの下にマットが敷いてあることに気がつきました。

はやとくんが「あ、このマットは金魚の水槽の下に敷いてあったのと同じだ！」と言いました。

「はやとが眠っている間に地震がきても、電気スタンドがはやとの頭の上に倒れてこないように敷いたのよ。」とお母さんが言いました。

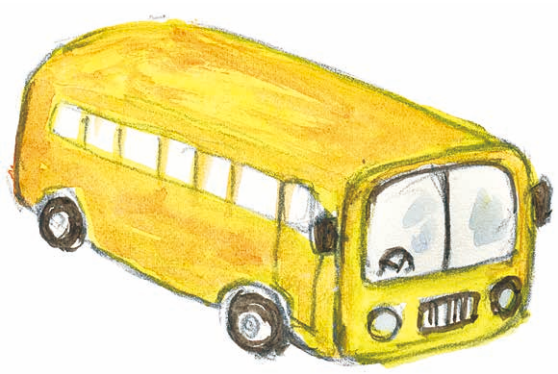


「これではやとの部屋も地震がきても大丈夫だね。」とお父さんが言いました。

しばらくして

「ちょっと待って！」とはやとくんが言いました。

「どうしたの？」とお母さんが不思議そうに聞きました。



「保育園（幼稚園）の地震の避難訓練の時は、地震がきたらすぐに自分の机の下に隠れたよ。

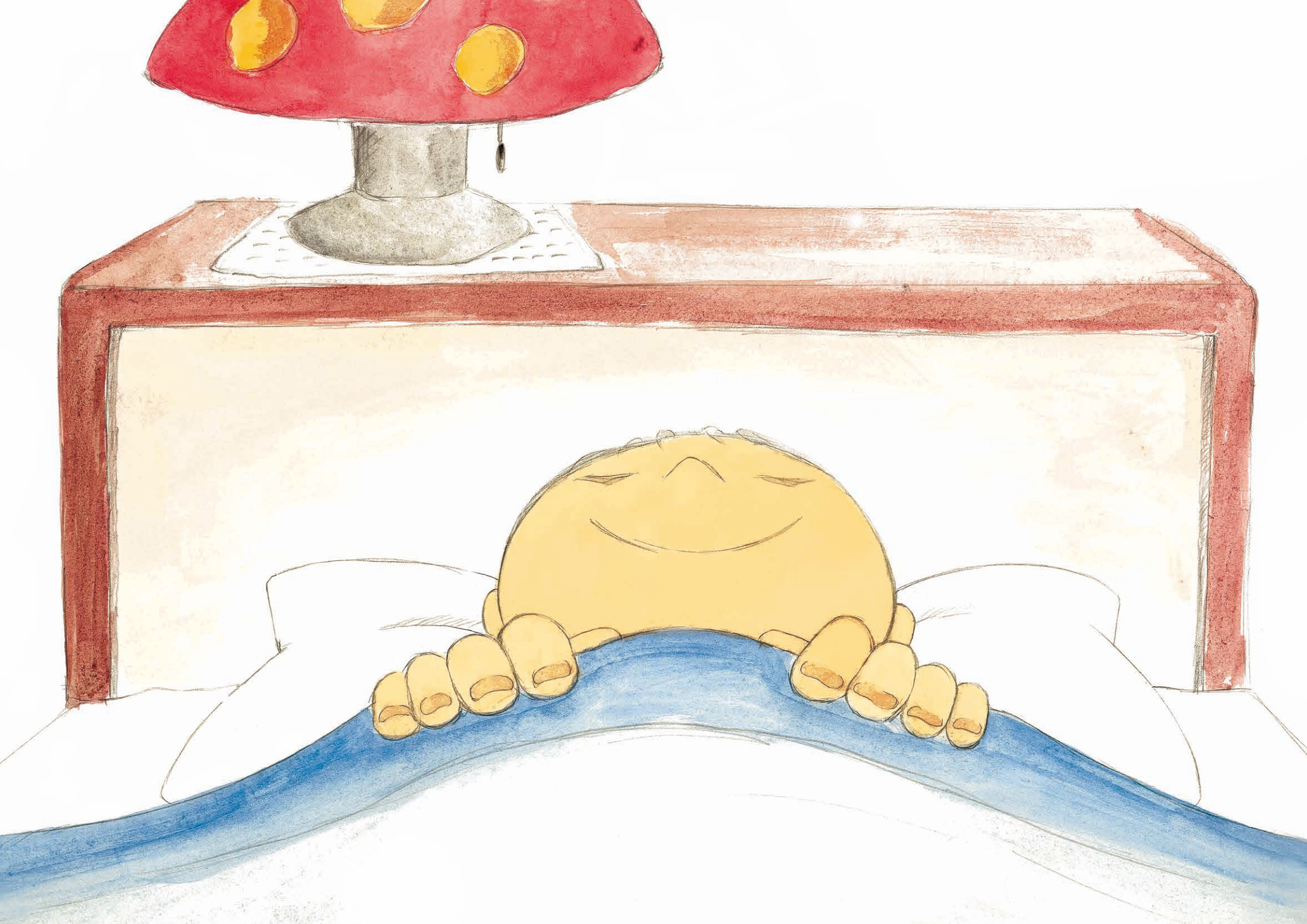
でも、僕の部屋の机の下にはおもちゃ箱があって、僕が隠れられないよ。」

と言って、はやとくんはおもちゃ箱を机の下からひっぱり出しました。

「まぁ、はやと、よく気付(きづ)いたわね。これで地震(じしん)がきてもきっと大丈夫(だいじょうぶ)ね。」

と言(い)って、お母(かあ)さんとお父(とう)さんは、はやとくんの頭(あたま)を優(やさ)しくなでました。

はやとくんは、ちょっぴり自慢気(じまんげ)に胸(むね)をはりました。



その日の夜、はやとくんは明日保育園（幼稚園）に行って、友達に今日のツッパリ棒やガラスに貼ったフィルムやすべり止めを敷いたことを教えてあげようと思いながら眠りました。

あとがき

2011年３月11日の東日本大震災を経験し、自然災害の多い日本で暮らすためには、私たちひとりひとりが、防災、減災、自己防衛の意識をしっかり持って生活することが大切だとあらためて認識しました。

いざという時のため、行政による「公助」は言うまでもありませんが、**自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「互助・共助」**こそが、災害による被害を小さくするための大きな力になります。そのため、避難訓練や準備を、それぞれの立場で真摯に実行し常に点検を怠らないことが大切です。また大人はもちろん小さな子どもにも幼いころからの防災意識の醸成が必要です。

この絵本は、４歳児以上を対象に、家庭内で親子一緒にできる「自助」減災の一つの方法をテーマに、長野県短期大学幼児教育学科３年造形表現Ⅱの科目履修生により制作されました。

また長野市との幼児防災啓発連携事業として制作されました。

参考文献　「被災ママ 812人が作った子連れ防災手帖」つながる .com 企画
「自分たちのまちは　自分たちで守る」長野市防災会議編
「減災のてびき」長野市総務部危機管理防災課編

この本を作った人たち

え　ぶん　長野県短期大学幼児教育学科３年
川畑希実恵　黒坂咲佳　春原聖希　竹澤美咲　時枝園香
監　　修　長野県短期大学幼児教育学科造形研究室　小林亮介
長野市総務部危機管理防災課　山口正樹
印刷製本　株式会社　信光社
発　　行　2013 年 10 月